

恒久平和へ思い一つ

富士見 千野敏子の碑に献花

富士見国民学校（現富士見町富士見小学校）の教師を務め、言論・思想統制の時代に反戦を訴え続けた千野敏子（1924～46年）の命日の2日、町コミュニティ・プラザ前に建つ敏子の碑の前で献

現在の諏訪市に生まれ、諏訪高等女学校（現諏訪二葉高校）で同町出身の三井為友氏の教えを受けた。42年春に富士見に赴任後、5年目に病いに倒れ、22歳で生涯を閉じた。在学中から教師時代にかけて書き続けた「真実ノート」の全編が反戦論で貫かれた4冊は没後、「葦折れぬ」の書名で出版された。

に頭を下げた。住民有志がウクライナ国旗の色をイメージして用意したというヒマワリと朝顔も並べられた。矢島教育長は「平和を追い求める気持ちを思い起こさせてくれる日は大切にしたいといけな

い」と話した。（濱翔貴）



町コミュニティ・プラザ前に建つ千野敏子の碑に献花する矢島俊樹教育長

た4冊は没後、「葦折れぬ」の書名で出版された。

町教委によると、碑は三井氏らによって南原山に建てられ、94年に現在の場所に富士見小へ向くように移設。死の1カ月ほど前に書いた絶筆の一節が刻まれている。

献花式には同町の矢島俊樹教育長も参列し、白菊を手向けて敏子の碑